

## 団体名



緒方美和 宮本楊子 越後屋美和 小島雄太  
(代表)



# ねりまワインプロジェクト

## 事業名

食農文化のまち練馬へ  
～ALL練馬でワインづくり～



# メンバー一覧

	氏名	所属 など
代表	越後屋 美和	東京ワイナリー
	堀 将人	東京野菜普及協会
	高野 宰	Chinese Tapas Hachi
	高野 律	同上
	海野 真幸	NPO法人自然工房めばえ
協力農家	白石 好孝、井口 和喜、関口 俊一、 加藤 晴久、加藤 直正、山口 卓、 瀧島 信彦	
プロフェッショナルリーダー 養成講座講師	横町 崇 中山 喜一郎	
プロフェッショナルリーダー 養成講座受講生		第1期、第2期 計56名
ねりまワインプロジェクト ファームメイト		(計681名/令和3年3月1日現在)
兼務職員	宮本 楊子	収納課 債権回収支援係
兼務職員	小島 雄太	スポーツ振興課 施設係
兼務職員	緒方 美和	青少年課 春日町青少年館

## 事業目的

- (1) 地産地消だからではなく“美味しいから”選ぶ、クオリティの高い「地域ブランドワインの開発」
- (2) 農家、加工品生産者、飲食店等を巻き込む活動で、練馬を「食農文化のまち」として区内外にPRする。

## 3年間の到達目標

- (1) 練馬産地域ブランドワインを新たに開発
- (2) 区民の参加と協働で、練馬が誇る地域ブランドを育てる。

# 前年度までの取り組み結果

## (1) 安定的な事業運営に向けた仕組みづくり

- ・令和元年度より、協力農家の畑のほか、自社畑を確保。
- ・プロフェッショナルリーダー養成講座の実施。  
⇒担い手確保に向けた取り組み。

◆「プロフェッショナルリーダー養成講座受講生」  
⇒畑の管理に参加しながら、ぶどう栽培やワイン醸造を学び、講座終了後もファームメイトの活動をサポートする。

## (2) ファームメイト活動の充実

- ・ファームメイト向けイベントを年間7回実施。  
⇒ワインづくりや都市農業に触れる機会を提供。

◆「ファームメイト」（登録無料）  
⇒プロジェクト活動を応援してくれるサポーター。  
農作業の体験などを通して、練馬の農業に触れてもらう。



<プロジェクトの畑MAP>

## 前年度までの取り組み結果

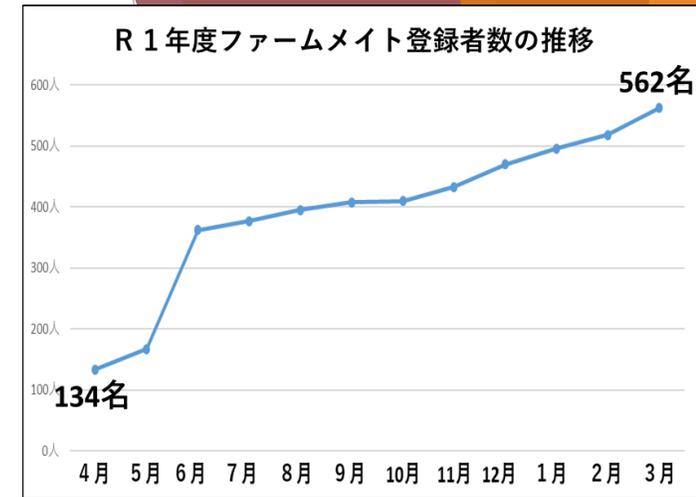
### (3) 都市農業の魅力発信

- ・世界都市農業サミットへの出店。
- ・区報やチラシ、Facebookなどを通じて活動の様子などを発信。  
⇒PR活動によりファームメイトが大幅に増加。

### (4) 練馬産地域ブランドワインづくり

- ・ワイン用ぶどうの収穫、ワインの醸造作業を実施。  
⇒練馬で初となる地域ブランドワイン「ねりまワイン2019」が完成。

赤ワイン 製造量：フルボトル13本、ハーフボトル5本  
白ワイン 製造量：フルボトル35本、ハーフボトル5本



## 令和元年度の課題

- (1) 区民やファームメイトに、関心を持ち続けてもらうため、より一層、「農」が見える情報発信を行う。
- (2) 組織として運営していくために、リーダーや事務局を担う存在を見出す。
- (3) 事業継続のために、安定した量のワインを生産し、収益化への見通しを立てる。
- (4) 練馬ならではの味わいを持った美味しいワインを開発する。

# 令和2年度当初の計画

## (1) より「農」が見える情報の発信

- ① ファームメイト向けイベントの実施
- ② Facebookを活用した情報発信
- ③ ねりまワインプロジェクトHPの作成

## (2) 安定した量のワインを生産できる体制作りと担い手の育成

- ① 専門家による経営相談の活用
- ② 栽培くらすの発足
- ③ ファームメイトが主体となって運営するイベント開催

## (3) 収益化に向けた見通しの整理

## (4) 練馬ならではの味わいを持つワインの開発

- ① 「ねりまワイン2020」の完成
- ② ぶどう栽培とワイン作りのための工夫

# 令和2年度の事業進行

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
情報発信 イベント発信	Facebook発信（随時）											
	ファームメイト向けイベントや非接触型企画の実施											
								HP作成				
組織作り 担い手の育成	専門家による経営相談											
						プロ講座受講生主体イベント実施						
										お披露目イベント企画・実施		
安定した量の ワイン生産体制	プロフェッショナルリーダー養成講座（第2期）											
										栽培クラブの発足・活動開始		
ぶどう栽培 ワイン開発	苗の植樹・芽かき・傘かけ							ラベル作成・ラベル貼り ・瓶詰作業		ワイン完成		
						収穫・醸造						
								ワイン熟成				

# 令和2年度の取り組み結果

## (1) より「農」が見える情報の発信

### ① ファームメイト向けイベントの実施

開催月	イベント内容
5月	ぶどうの樹で作ったリースや協力農家の野菜等のお取寄せ販売
7月	ぶどうの傘かけ体験
8月	収穫&ぶどうの葉の葉づくり体験
9月	エディブルツーリズム（街歩き）
9月	収穫体験（2回目）
12月	ぶどうの皮で染物体験 ホットワイン提供イベント
12月	ラベルデザイン募集
2月	「ねりまワイン」瓶詰め体験
3月	「ねりまワイン2020」お披露目



ぶどうの樹で作ったリース



収穫体験の様子



エディブルツーリズムで立ち寄った農業体験農園

### <イベント参加者の感想>

- ・街歩きを通して、練馬の農業や生産者について知ることができ、勉強になった。
- ・住宅地の中にも、こんなに畑が残っているのだと知って驚いた。
- ・長野や山梨などワインの産地に行かなくても、地元の練馬でワイン用ぶどうの栽培に関われるのが魅力的。

## 成果

参加者に練馬の「農」の魅力を感じてもらった。

コロナ禍でも、練馬の「農」をPRできる取り組みにチャレンジした。（お取寄せ販売など）

# 令和2年度の取り組み結果

## ② Facebookを活用した情報発信

### ○Facebookフォロワー

平成31年4月1日時点：338人

令和2年3月1日時点：562人

令和3年3月1日時点：688人

### ○ファームメイト登録者数

平成31年4月1日時点：134人

令和2年3月1日時点：562人

令和3年3月1日時点：681人

**成果**

プロジェクトやイベントを知ってもらうきっかけとなり、**ファームメイト数が増加した。**



ねりまワインプロジェクト  
地域団体



いいね!

ねりまワインプロジェクト  
2020年8月17日 19:21 · 公開

こんにちは！ねりまワインプロジェクトです。  
みなさんと育ててきたブドウが、いよいよ収穫の季節を迎えます！  
そこで、ファームメイト限定イベント「ブドウの収穫」を開催します。  
この収穫体験で収穫したブドウが、来春には新作の「ねりまワイン」になります。  
また、収穫作業の後には、ブドウの葉を使ったしおり作り体験を行います。奮ってご参加ください！  
... もっと見る

いいね！ 57件

# 令和2年度の取り組み結果

## ③ ねりまワインプロジェクトHPの作成

- 活動の紹介や畑の様子をリアルタイムに発信するための基盤作り
- ファームメイト同士の情報交換のプラットフォームとしても活用する予定。

○URL < <http://nerimawine.com> >

## コンテンツ

- ・プロジェクトの紹介
- ・畑の紹介（動画、レポート記事の掲載）
- ・イベントの予定などのニュース発信
- ・栽培くらぶ専用ページ（情報共有） など

成果

情報発信基盤を強化し、ファームメイト同士で交流するプラットフォームができた。



# 令和2年度の取り組み結果

## (2) 安定した量のワインを生産できる体制作りと担い手の育成

### ① 専門家による経営相談の活用

○月1回の全体会議に専門家（CBS）を交え、経営相談を実施した。

○専門家の助言を受け、プロジェクトの目標やコンセプトを整理した。

### 成果

- ・プロジェクトとファームメイトの関わり方や方針を整理できた。  
→**担い手の候補を具体的にイメージしやすくなった。**
- ・ファームメイトが主体となって畑の管理やイベント運営を行う仕組みの構築につながった。  
→「栽培くらぶ」の発足など

### 1、プロジェクトのコンセプト

**MOTIVE**

都市（東京の練馬）で暮らす私たちの身近な場所でも、

美味しい野菜や果物がたくさん作られていることを知ってほしい！

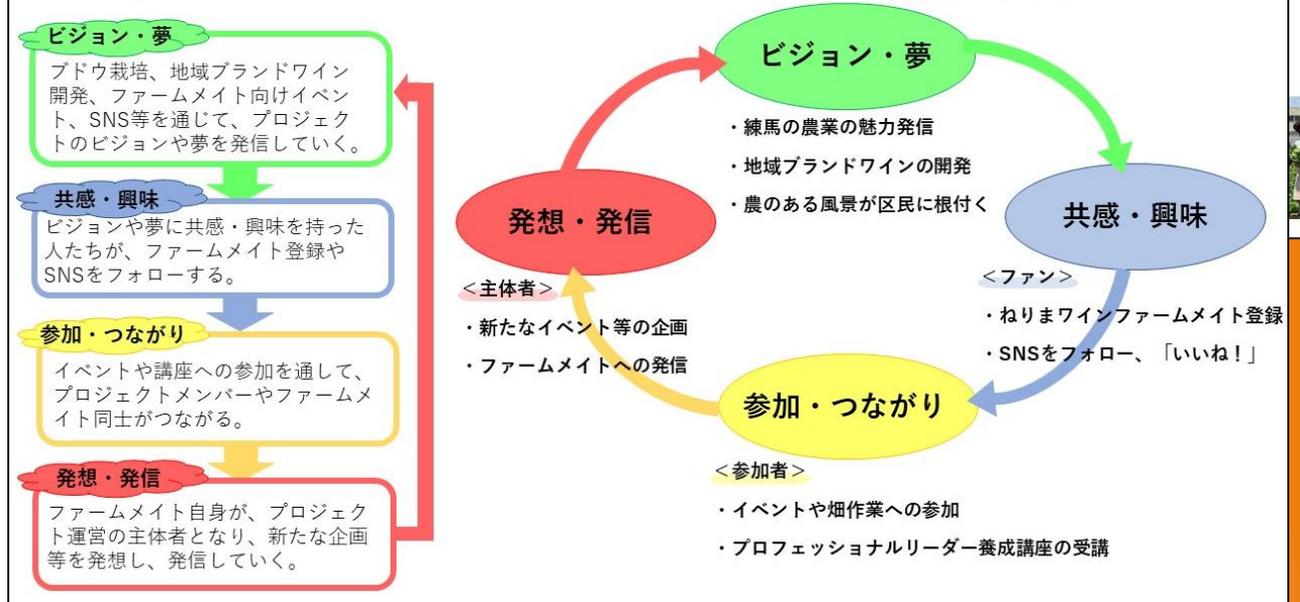
・農家、加工品生産者、飲食店等を巻き込んだ活動で、練馬区を「食農文化のまち」として内外にPRしたい！

**IDEA**

練馬区内の畑で育てたブドウを100%使用して、



### 4、プロジェクトとファームメイトの関わり方



プロジェクトのコンセプトを整理した資料（抜粋）

# 令和2年度の取り組み結果

## ② 栽培クラブの発足

### プロフェッショナル リーダー養成講座

金曜日コース/土曜日コース  
(それぞれ月1回×全8回)

- ・ 地区区民館等で講義  
+
- ・ プロジェクトの畑で実習



### プロ講座

プロ講座としての  
新規募集は  
行わない。  
(休止)

## R3年2月以降の新制度

### 「栽培クラブ」発足

固定の曜日で開催する会員制  
クラブ活動。(会員30名)  
アシスタントリーダーの指導の  
もと、週2回、ぶどう樹の管理  
作業を行う。

アシスタントリーダーは  
プロフェッショナルリーダー  
養成講座卒業生が担う

### 単発講座

「栽培クラブ」とは別事業として、  
座学形式の単発講座  
を不定期で開催する。  
(有料)

## 成果

継続的に栽培や醸造に関わってくれる担い手を確保し、組織で活動する体制を構築できた。

## 令和2年度の取り組み結果

### ③ ファームメイトが主体となって運営するイベントの開催

- プロフェッショナルリーダー養成講座受講生やその他ファームメイトから有志を募り、イベントの企画、PR、運営に取り組んでもらった。  
→コロナ禍でもできることを考え、ZOOMを活用した企画会議や、WEB配信イベントにも取り組んだ。



↑収穫・しおり作りイベント  
事前打ち合わせの様子

## 成果

- ・今後、プロジェクトを**組織として運営するための仲間作り**ができた。
- ・企画に携わった**ファームメイトに、今後は自分達がプロジェクトの主体**になっていく**意識**が芽生えた。
- ・これまで区が行っていた、事務局の作業内容や記録資料などを引き継ぐことができた。



↑ぶどうの皮を使った染物体験イベント  
でスタッフが絞り方を説明している様子



↑「ねりまワイン2020」完成披露  
イベント企画会議（ZOOM）の様子

# 令和2年度の取り組み結果

## (3) 収益化に向けた見通しの整理

R 3年度以降に向けた収支の見込み

(単位：千円)

	R 1年度	R 2年度	R 3年度見込み
支出	1,700	1,600	1,100
収入 1	450	600	1,250
収入 2 (区補助金)	1,000	1,000	(最大250)

支出は減少

収入は拡大

### 支出減の要因

- ・畑の設備環境が充実したため、資機材の新規購入費が減少。(△約400千円)
- ・「栽培くらぶ」の指導役を、ファームメイトに任せることで、外部講師への委託料が減少。(△約100千円)

### 収入増の要因

- ・「ねりまワイン」の生産量拡大による売上増。(約400千円)  
→ 今後は、さらに拡大の見込み。
- ・「栽培くらぶ」会費や単発講座等の実施による収入増。(約250千円)

**成果**

区補助金と自己資金による補填に依存せず、**自立して事業継続できる計画**が立てられるようになった。

# 令和2年度の取り組み結果

## (4) 練馬ならではの味わいを持つワインの開発

### ① 「ねりまワイン2020」の完成

#### ○種類

- 1、ねりまブラン（白ワイン）  
シャルドネ85%、ゲヴェルツトラミネール15%使用。
- 2、ねりまルージュ（赤ワイン）  
ピノタージュ70%、タナ25%、  
カヴェルネソーヴィニヨン5%使用
- 3、ねりまロゼ（ロゼワイン）  
ピノ・グリ100%使用

#### ○ラベルデザイン

ファームメイトからラベルデザインを募集し、オリジナルのラベルデザインを作成



720mlボトルで換算した場合の完成数量

	令和元年度	令和2年度
赤	約16本	約20本
白	約38本	約84本
ロゼ	—	約130本

## 成果

昨年に引き続き、練馬産の地域ブランドワイン第2号が完成。

→イベントやプレスなどでPRし、認知度向上とブランディングに取り組んでいる。

# 令和2年度の取り組み結果

## ② ぶどう栽培とワイン作りのための工夫

### <練馬ならではの味わい>

- 同じ品種でも、育った土や環境で味わいが変わる。
- 練馬の土や気候に合った品種や栽培方法を見つけることで、練馬ならではの味わいのあるワインを作る。

### <取り組み>

- 肥料を使用せず、練馬の土でぶどうを育てる。
- 自社畑にぶどう棚を設置。  
→棚は日陰を作りやすい。猛暑になる練馬で、暑さに強くない品種も育てられるように栽培方法を工夫。
- 多品種をブレンドし、個々の強みを活かした味わいを作る。

⇒飲んだときに、**練馬の風景が思い浮かぶようなワイン**を目指す。



↑ぶどう棚



シャルドネ



ピノ・グリ

## 令和2年度の成果

### (1) より「農」が見える情報の発信

- ・ イベント等を通して、参加者に都市農業の魅力を体験してもらった。
- ・ 情報発信基盤を強化し、ファームメイト同士の交流のプラットフォームができた。

### (2) 安定した量のワインを生産できる体制作りと担い手の育成

- ・ プロジェクト活動の中心となる担い手を確保し、活動を組織的に運営する土台ができた。
- ・ 複数人で畑を管理できるようになったことで、収穫量の拡大に繋がってきている。

### (3) 収益化に向けた見通しの整理

- ・ 事業基盤の整備（畑の設備など）に係る支出の減少と、ワイン生産量拡大等に伴う収入の拡大により、自立に向けた見通しが立った。

### (4) 練馬ならではの味わいを持つワインの開発

- ・ 昨年度に引き続きワイン作りに取り組み、昨年度の約4倍の量のワインが完成した。

## 令和2年度の課題

### (1) 組織体制の再整理

- ・ファームメイト主体の畑管理やイベント運営の本格稼働。  
→本格稼働後も、都度、組織体制の見直しと再整理が必要。

### (2) 収益化に向けた取り組み

- ・今後もプロジェクトを継続し、発展させていくための収益力強化。  
→「ねりまワイン」の生産量拡大に伴い、生産したワインを確実に収益につなげられる販売スキームの確立が必要。

### (3) 練馬ならではの味わいを持つワインの開発

- ・継続した「ねりまワイン」開発、PR、ブランディング。
- ・練馬の土や気候に合ったぶどう栽培、ワイン開発の確立。

## 令和3年度の計画

### (1) 栽培くらぶ、イベント運営チーム【新規】の始動

2本柱を軸として安定生産・情報発信を行うことで、収益力を強化する。また、定期的に体制の見直しを行い、必要に応じて再編する。

#### ~ 2 本 柱 ~

**【栽培くらぶ】**  
日常的に畑の  
管理をする

**【運営チーム】**  
定期的にイベント  
を企画・運営する

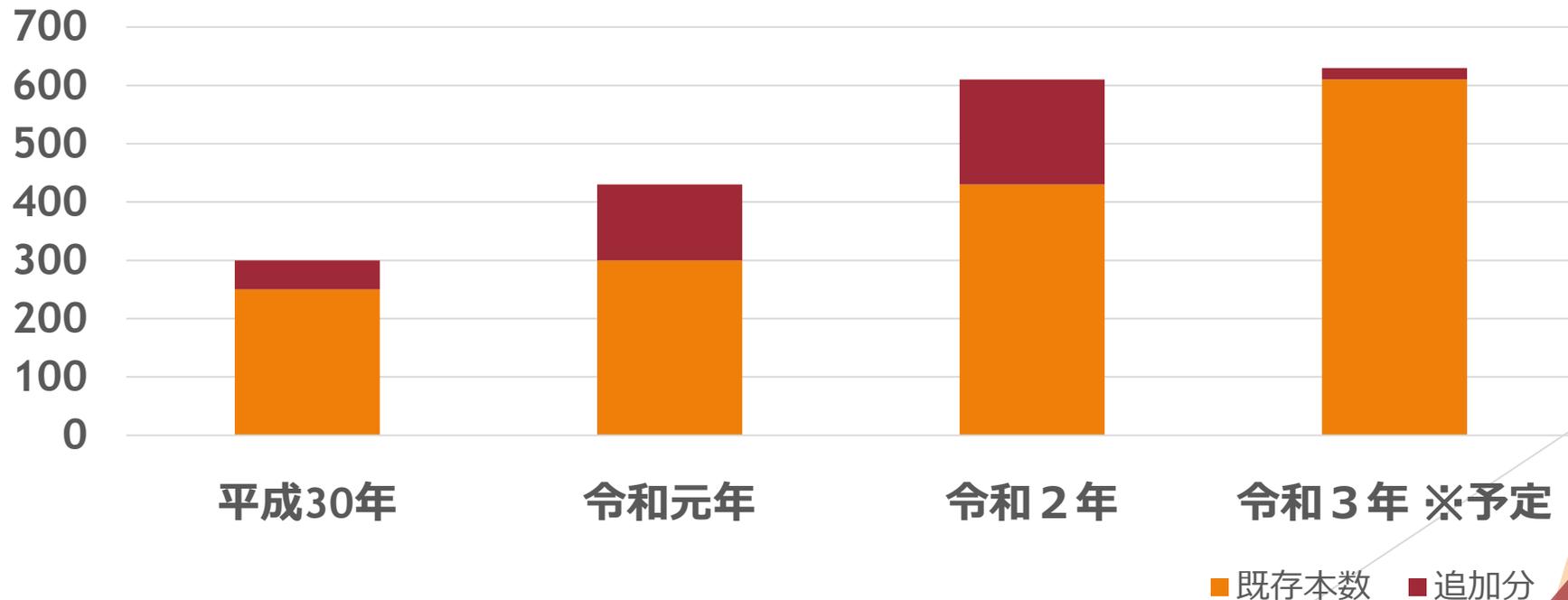
### (2) 練馬ならではの味わいを持つワインの開発

引き続き肥料や仕立て方など練馬の風土に合うものを調査研究するとともに、栽培くらぶの手を借りて細かいケアを行う。

## 令和3年度の計画（参考）

ぶどうの植樹本数も順調に伸びており、安定した生産ができるよう体制づくりをしている。今後も畑を増やし、植樹本数を増やしていく予定。

### ぶどうの木 植樹本数推移



## 令和4年度以降の展望

栽培くらぶ、イベント運営チームメンバーを中心に、安定した組織・運営を確立する。その後事業の拡大と共に、**区民生活に「農」のある風景が定着**することを目標とする。

